

# 木曽岬町議会議員 伊藤守の議員活動レポート

木曽岬町議会議員  
の伊藤守です。

2013年に初当選以来、3期目です。防犯対策、少子化対策、コミュニティバス、防災、環境問題、企業誘致などの質問を行ってきました。町民の皆さんのより良い暮らしのために、議員として行政に訴えていくつもりです。ご支援よろしくお願いします。



木曽岬町は、人口減少が著しく進んでいます。この問題について、専門部署をつくり、企業に協力していただいて少子化に対して意見を求め、また、若い方の意見を募ることも重要であると考えています。防犯対

策に関しては、防犯カメラの設置により、少しは犯罪や不法投棄が少なくなると考えています。裏面に行政への一般質問を記載しました。



## 議会の仕事

議会運営委員会	副委員長
総務建設常任委員会	副委員長
教育民生常任委員会	委員

## 地域の仕事

ボラ俱楽部 会長 (H23.24)  
主に夏祭りの運営

土地改良区総代 (H13.9～H17.9)  
土地改良区総代、理事 (H17.9～H21.9)

木曽岬中学校PTA会長 (H14)  
きそさき防犯パトロール隊 (H26.6～)  
地区防災会会長 (H26.6.1～R6.1)  
雁ヶ地、脇付、田代住宅、新脇付地区

国會議員秘書(H31.1～R5.3)

## 略歴

30.1.6農家の家に生まれる  
木曽岬小学校卒業  
木曽岬中学校卒業  
佐屋高等学校卒業  
家族 妻 祖母  
子ども 長女次女長男

## 連絡先

ホームページ  
<https://ito-mamoru.com>  
メール  
[ito.mamoru@gmail.com](mailto:ito.mamoru@gmail.com)  
電話  
[090 5868 8872](tel:09058688872)  
事務所  
[〒498-0818](tel:0524980818)  
木曽岬町雁ヶ地263

# 伊藤守の議会での一般質問

こんな質問をしてきました。



## 防犯対策についての質問



### コミュニティバス

町民の要望でもある最終便の時間の延長し、70歳以上、妊産婦及び障がい者を無料にすべきです。



### 環境問題

外来種が自然環境や生き物の生態系を崩しているようなので、対策を進めていただきたいと考えています。



### 防災

防災リーダーの養成や災害時にドローンを使うことで、救助活動を進めることができます。



### 企業誘致

町の税財源の確保の面や雇用に関して、地域経済や町内の定住化に繋がる可能性が大きいと考えています。

#### 防犯カメラについての姿勢

防犯カメラの設置は、安全で安心して暮らせる町の実現に大きな役割を果たすものと考えられ、これまで一般質問の際に質問してきました。防犯カメラの必要性を、過去の一般質問でも再三質問してきました。

#### 町内不法投棄箇所への対応

町内での不法投棄がある状況から、これらの箇所にカメラを設置してはどうかと考えており、質問してきました。

#### 防犯カメラの周知

最近凶暴な犯罪が増えてきています。木曽岬町に防犯カメラが設置されていることを日本語と外国語でアピールすることにより、少しは犯罪が少なくなると考えています。

#### 自主防犯組織

第5次総合計画の中に、自主防犯組織の育成と青色回転灯パトロール車、平成30年6台、平成35年10台の目標があります。青色回転灯パトロールを行う際のボランティアの人数について行政に問い合わせました。



## 少子化対策についての質問

#### ワンストップサービス

第5次総合計画では平成35年の人口目標が、6,500人ですが、どのような施策を考えているのか、質問をしました。少子化対策・定住化対策・高齢者対策等で、一つの窓口で対応できるワンストップサービスの提供を求めました。

#### 少子化対策について

町長は、少子化問題は、最優先課題であるとこれまで言っておられたので、わかりやすい表のようなものを作成して発信してほしいとお願いしました。結婚に至るまでのサポートや、県の進める事業など、早い時期に対策を講じないと駄目で、そうした姿勢を見せていただければと思います。

#### 人口減少

人口減少が著しく進んでいるというのが当町の現状です。この問題を専門的に取り組み、人口減少に歯止めをかけるための専門部署をつくり、もっと木曽岬町をアピールすべきです。また企業に協力していただいて少子化に対して意見を求め、また、若い方の意見を募ることが必要です。

#### 結婚支援センター

町として、結婚支援事業について、三重県の結婚支援センターと連携や、各市町との連携を取り進めていかれるのか、今後どのようにおこなうのか、役場の姿勢をといました。また役場の人が、業務をしながら取り組んで行った方が良いのか、事業の結果や計画についても質問をしました。